

# 4. 計画内容の検討及び設定

## 4-1 計画方針の検討

### (1) 再生修復に向けての整備方針

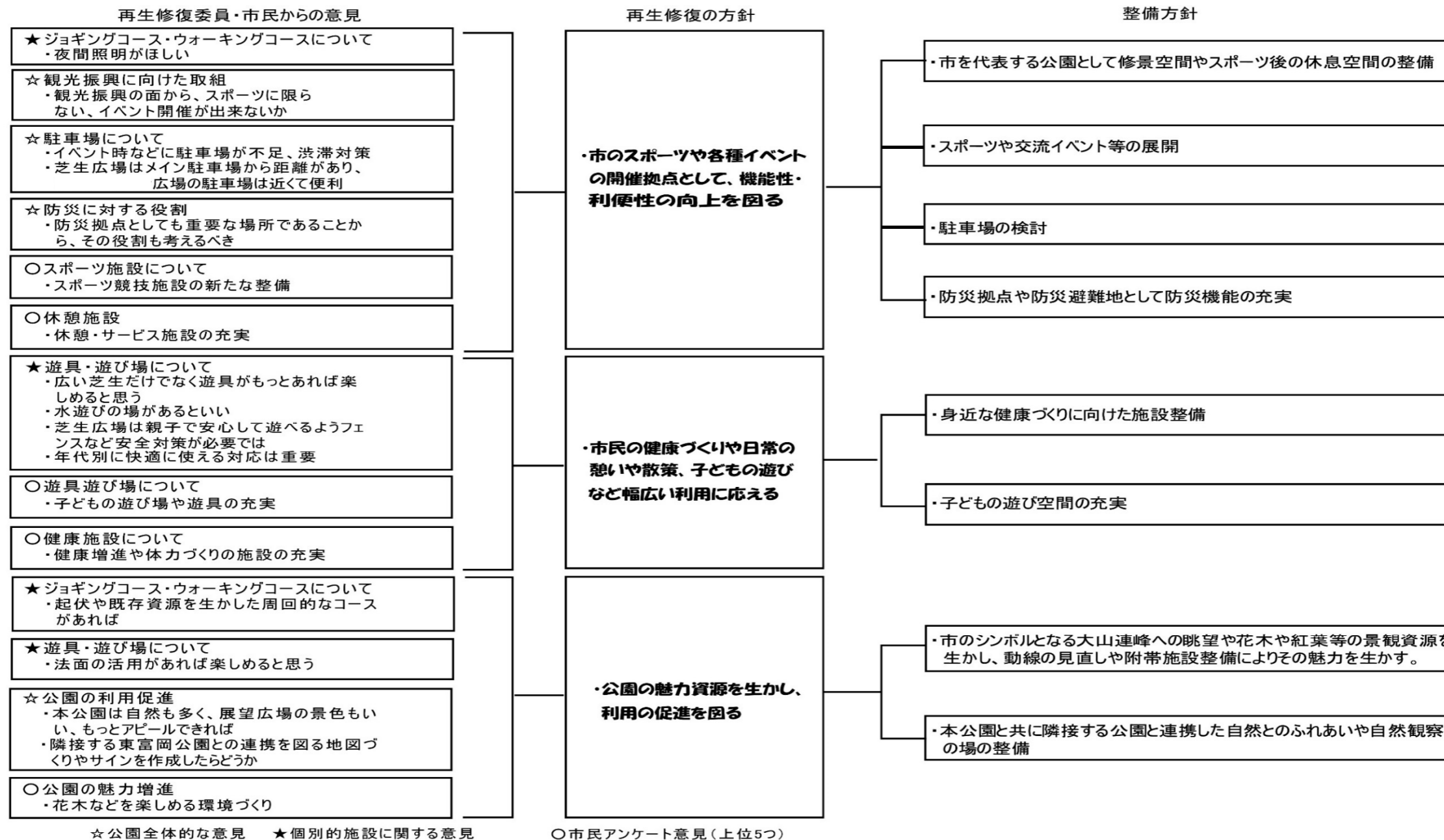
総合運動公園は伊勢原市スポーツの拠点として、市を代表する競技や大会の場であると同時に、同時に子どもから大人まで様々な世代の市民が集う交流空間でもある。

総合運動公園の再生修復に当たっては、スポーツの拠点としての機能を保持しつつ、大山の麓に立地する地形的な特徴を発揮し、市民の健康づくりや既設の花木、眺望、遊びなど、多世代が楽しめることが大切である。

本市のまちづくりの方向や現状の課題、市民ニーズを踏まえ、整備方針を次のように設定する。



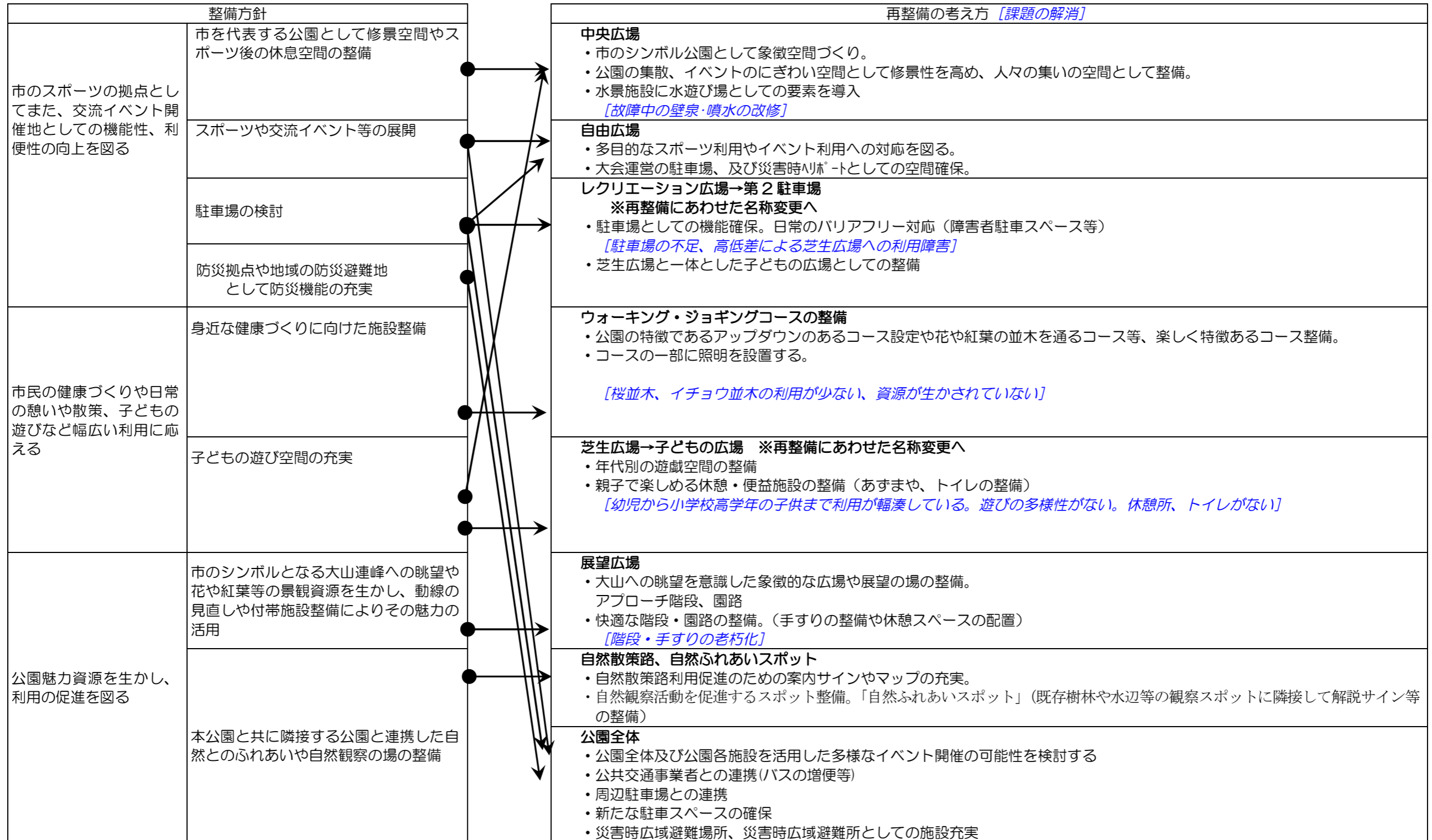
伊勢原市総合運動公園は、大山を背景にスポーツ競技の展開や四季折々の花木の中で憩い、遊びや健康づくりをとおして市民が元気となる公園をめざします。

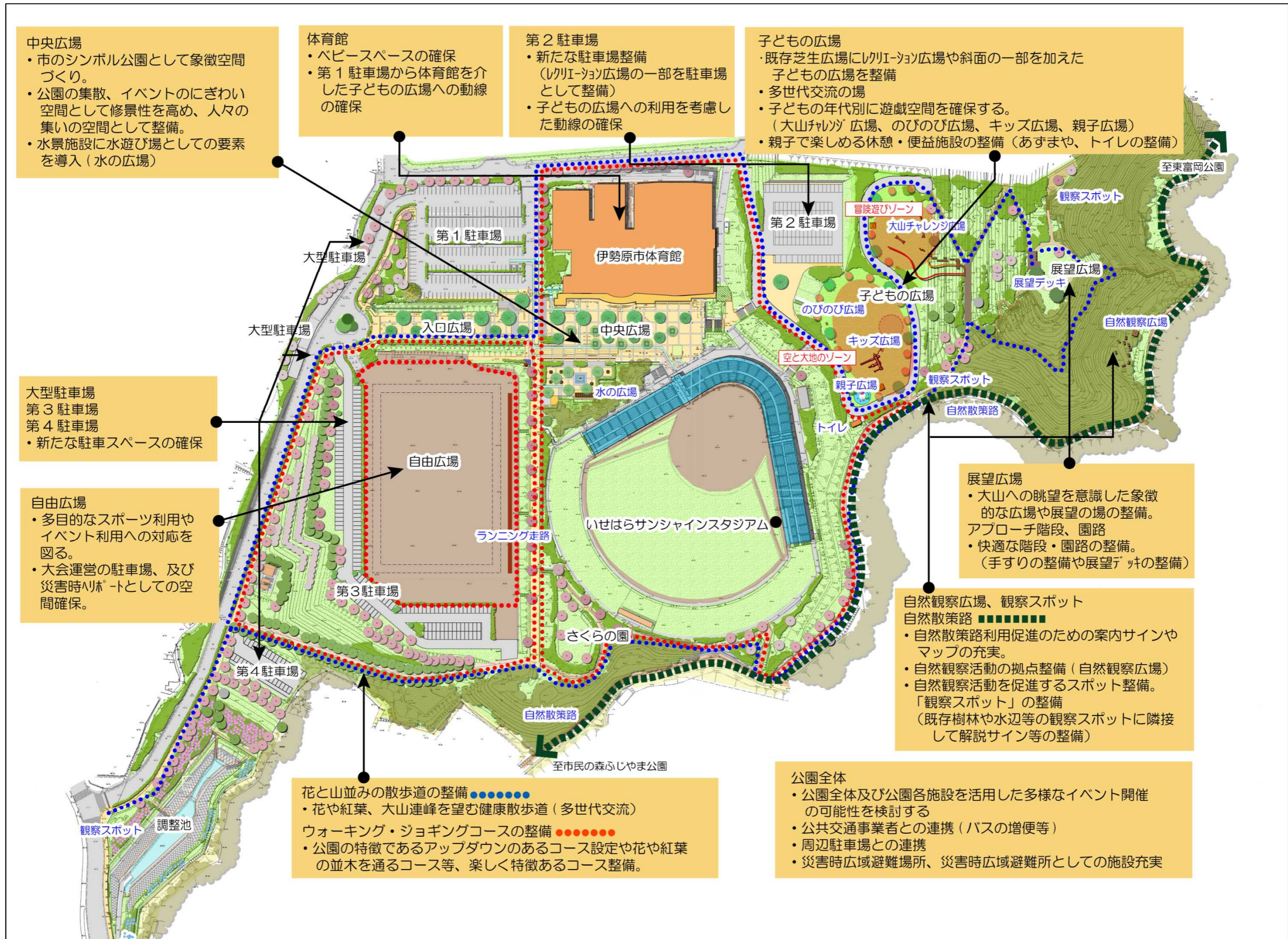


☆公園全体的な意見 ★個別的施設に関する意見

○市民アンケート意見(上位5つ)

(2) 再生修復整備の考え方





**中央広場**  
 ・市のシンボル公園として象徴空間づくり。  
 ・公園の集散、イベントのにぎわい空間として修景性を高め、人々の集いの空間として整備。  
 ・水景施設に水遊び場としての要素を導入（水の広場）

**体育館**  
 ・ベビースペースの確保  
 ・第1駐車場から体育館を介した子どもの広場への動線の確保

**第2駐車場**  
 ・新たな駐車場整備（レクリエーション広場の一部を駐車場として整備）  
 ・子どもの広場への利用を考慮した動線の確保

**子どもの広場**  
 ・既存芝生広場にレクリエーション広場や斜面の一部を加えた子どもの広場を整備  
 ・多世代交流の場  
 ・子どもの年代別に遊戯空間を確保する。（大山チャレンジ広場、のびのび広場、キッズ広場、親子広場）  
 ・親子で楽しめる休憩・便益施設の整備（あずまや、トイレの整備）

**大型駐車場**  
 第3駐車場  
 第4駐車場  
 ・新たな駐車スペースの確保

**自由広場**  
 ・多目的なスポーツ利用やイベント利用への対応を図る。  
 ・大会運営の駐車場、及び災害時避難所としての空間確保。

**花と山並みの散歩道の整備** ●●●●●●●●  
 ・花や紅葉、大山連峰を望む健康散歩道（多世代交流）  
**ウォーキング・ジョギングコースの整備** ●●●●●●●●  
 ・公園の特徴であるアップダウンのあるコース設定や花や紅葉の並木を通るコース等、楽しく特徴あるコース整備。

**展望広場**  
 ・大山への眺望を意識した象徴的な広場や展望の場の整備。アプローチ階段、園路  
 ・快適な階段・園路の整備。（手すりの整備や展望デッキの整備）

**自然観察広場、観察スポット**  
**自然散策路** ■■■■■■■■  
 ・自然散策路利用促進のための案内サインやマップの充実。  
 ・自然観察活動の拠点整備（自然観察広場）  
 ・自然観察活動を促進するスポット整備。「観察スポット」の整備（既存樹林や水辺等の観察スポットに隣接して解説サイン等の整備）

**公園全体**  
 ・公園全体及び公園各施設を活用した多様なイベント開催の可能性を検討する  
 ・公共交通事業者との連携（バスの増便等）  
 ・周辺駐車場との連携  
 ・災害時広域避難場所、災害時広域避難所としての施設充実

## 4-2 再生修復整備計画

### (1) 中央広場

#### ① 体育館前広場

- ・ 体育館前広場は公園の賑わい空間として、開放的で明るい広場を創出する。
- ・ 広場は現況を維持しつつ、サークルベンチ等の配置により憩いの空間を創出する。



#### ② 水の広場

- ・ 現況噴水・壁泉広場は再整備し、緑に包まれたガーデンテラスとして利用者のやすらぎの空間を創出する。
- ・ 広場中央に水のスクエアを配し、広場の修景と共に夏場の水遊びの空間として利用する。
- ・ 広場内のケヤキ植栽の下、テーブル・ベンチセットやパーゴラ、キッチンカーの接続空間を確保する。



注 パーゴラ：庭園や公園で 사용되는日陰棚、多くはつる性植物を這わせて利用する。キッチンカー：食品の調理を目的とした設備を備える車両

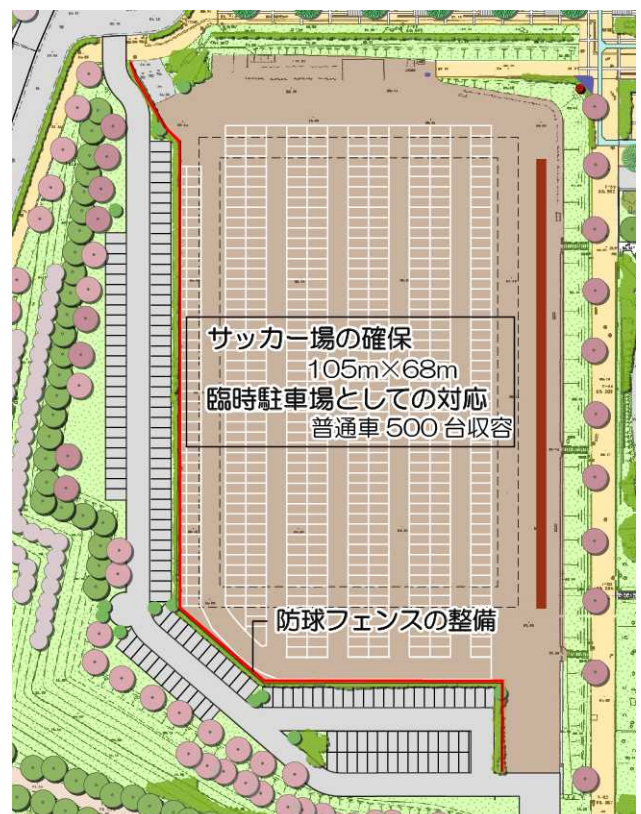
### (2) 自由広場

自由広場は、現況のサッカーやグランドゴルフ利用とともに、陸上競技の場としての役割が求められる。

更には、イベントや大会時の臨時駐車場としての対応も求められる。

このような要請に対応するため、現状のグランドとしての形態を継続し、グラウンド面をダスト舗装で修復整備するとともに、広場東側に100mの直線走路を2コース再整備する。

なお、自由広場が災害時のヘリコプター臨時離着陸場としての役割も担うため、広場内に施設的な整備は行わない。自由広場西側は、再生修復事業に伴い、駐車場として位置付けるため、自由広場西側外周部に防球フェンスを整備する。



### (3) 子どもの広場

#### ①整備の考え方

**= 広々とした見晴らしの丘でのびのび遊び、冒険の山にチャレンジする =**

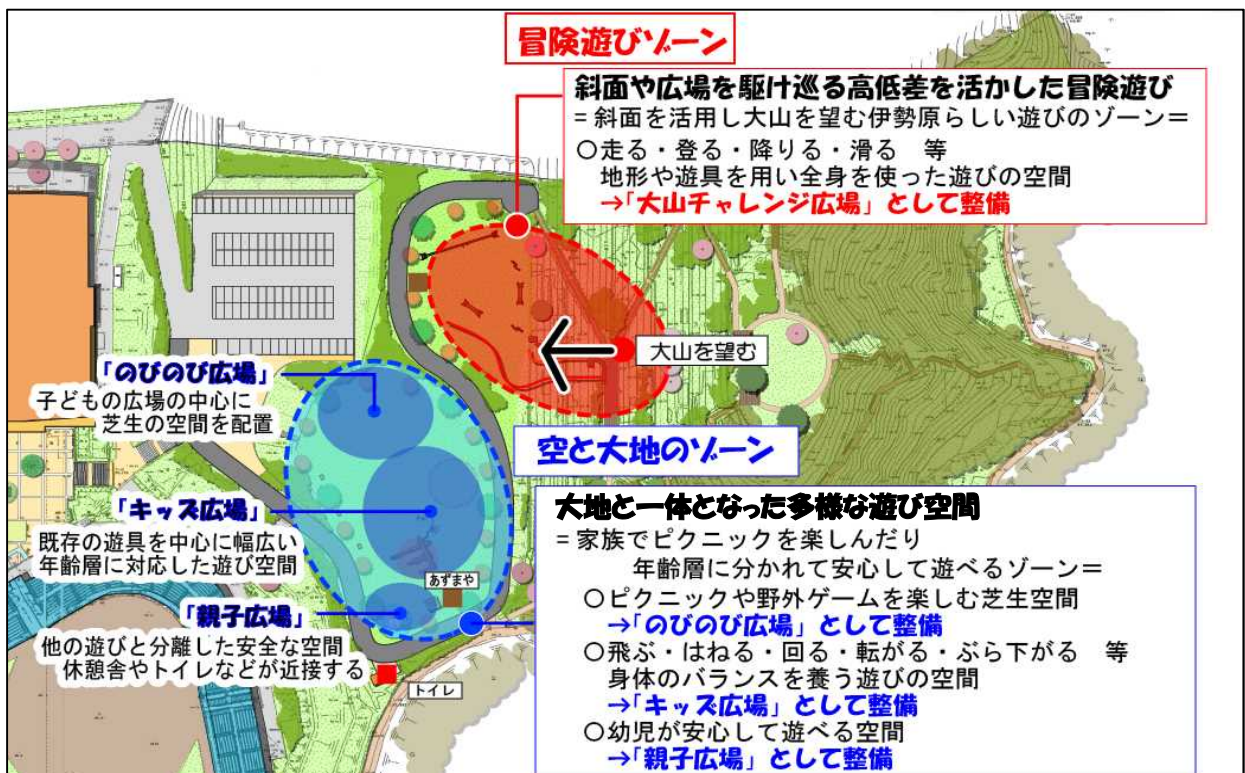
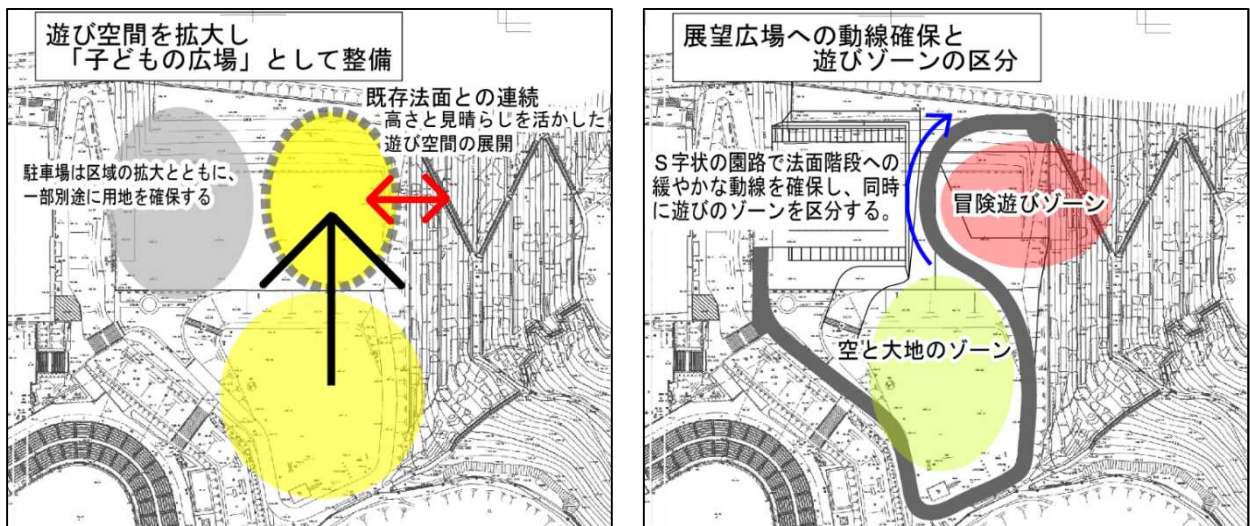
- ・ 既存の芝生広場を造成で拡大し、広々とした遊びの丘を形成する。
- ・ 既存法面と一体となり、その高さで見晴らしを生かした伊勢原らしい遊びの空間を形成する。

**= 子どもから高齢者まで幅広い利用者が集う“多世代交流の場”を展開する =**

- ・ 遊具を取り巻く広場に健康遊具を配し、多世代の交流が生まれる空間を形成する。

#### ②遊びのエリアの空間構成の考え方

園路は、レクリエーション広場から、展望広場への階段部までS字状に設置し、展望広場への緩やかでスムーズな動線を確保する。同時に、『冒険遊びゾーン』と『空と大地のゾーン』を明確に区分する。各ゾーンでは、伊勢原らしい遊び空間として地形を活かし、大山への展望や地形を活かした伊勢原らしい遊び空間や子どもの多様な遊び動作を取り入れた全身を養う遊び空間を展開する。また、安全な遊び空間として年齢層を考慮した空間づくりを行う。



### ③遊びの広場の展開イメージ

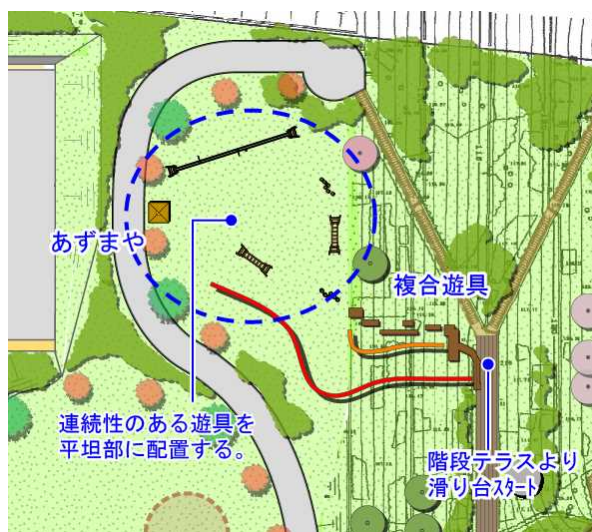
各遊びの広場のイメージを次に示す。

| ゾーン  | 名称            | 遊具展開イメージ  | 修景  |
|--|---------------|---|---|
| <b>冒険遊びゾーン</b>                                   | 大山<br>チャレンジ広場 | 広場南側から、連続して遊具を設置し、見晴砦に見立てた複合遊具頂上をゴールとする遊び空間。<br>複合遊具の頂上は、大山への展望デッキとなり、デッキへは既存の階段や展望テラスまで連絡する。 | 広場外周に<br>緑陰樹(ケヤキ)や<br>花木(サルスベリ)<br>を植栽する。 |
| <b>空と大地のゾーン</b><br>子どもの広場の中心地として健康遊具を配し、多世代交流を図る | のびのび広場        | 約 1,500㎡のまとまった芝生広場。<br>基本的に施設は配置しない。  |   |
|  | キッズ広場         | 現況複合遊具の拡大及び隣接して新規遊具を設置。<br>現況の登る・滑る等の遊び要素に加え、ジャンプやバランスを養う遊びなどアクティブな要素を拡大する。                   |   |
|  | 親子広場          | 幼児が安全で安心して遊べる空間を確保する。安全性の高い遊具をコンパクトにまとめ、外周に柵を設置する。<br>※既存遊具は移設とする。(親子広場内に再配置)                 |   |
| <b>休憩・便益施設</b>                                   | あずまや・トイレ      | あずまやをキッズ広場・親子広場の中間と大山チャレンジ広場に1箇所づつ設置する。<br>トイレは、親子広場南側に設置する。                                  |   |

## 1) 冒険遊びゾーン

### i 大山チャレンジ広場

- ・斜面部に複合遊具を配置する。(遊具イメージにより滑り台のスタート地点が異なる)
- ・平坦部には連続性のある遊具を配置する。



▶ 複合遊具・ロングライダー  
見晴らし砦に見立てた複合遊具の設置  
(遊具トップは大山を望む階段テラス)



遊びの連続性を発揮する遊具(複合遊具と一体となった遊びの展開)

「伊勢原市遊具に関するアンケート調査」(平成 30 年 2 月)

○斜面エリア上位 3 位: 「滑り台(ガリッサド等)」、「ローラ滑り台」、「芝そり」

## 2)空と大地のゾーン

- ・大人が楽しめる健康遊具を配し、こどもの遊びを見守る多世代交流の空間を形成する。
- ・緑陰樹となるケヤキや初夏から夏にかけて開花するサルスベリなどを植栽する。



▶ 世代交流の場として健康遊具を配置する



▶ 緑陰をつくるケヤキやサルスベリを外周に植栽する

### i のびのび広場

- ・開放的な芝生広場と自由に駆け回ることのできる多世代が楽しく過ごせるピクニック空間を形成する。

### ii キッズ広場 (3~12 歳程度を対象)

- ・既存遊具を中心に幅広い子どもが利用できる空間として、遊びのバリエーションを拡大する。
- ・既存複合遊具に遊びの要素追加。
- ・既存遊具に隣接して新規大型単体遊具を配置する。



▶ 既存複合遊具への遊び要素の追加のイメージ

▶ 新規大型単体遊具のイメージ



「伊勢原市遊具に関するアンケート調査」(平成 30 年 2 月)

○遊具エリア上位 3 位： 「ふわふわドーム」、「アスチック・アドベンチャー系」、「ジャングリズム(ツリ等)」

※「ふわふわドーム」は、市民、職員ともに 1 位を占める。

### iii 親子広場（1～3 歳程度を対象）

- ・既存の滑り台、砂場に隣接し、親子で安全に遊べる幼児用の遊び場を配置する。
- ・幼児遊具をマット上に配し、周囲にフェンスを設置した複合遊具を配置する。



「伊勢原市遊具に関するアンケート調査」（平成 30 年 2 月）

○幼児エリア：「ブランコ（ガード付）」、「複合遊具」、「スプリング・スイング遊具」が上位を占める。

※ふわふわドームや滑り台、水遊び場について上位に位置づくが、他地区で対応できるものや既存遊具で対応できるものは除外した。

#### ④休憩・便益施設

- ・子ども達の遊びを見守る位置にあずまやを配置するとともに、水飲みやおむつ交換台を備えたトイレを配置する。





## (4) 展望広場と法面部階段

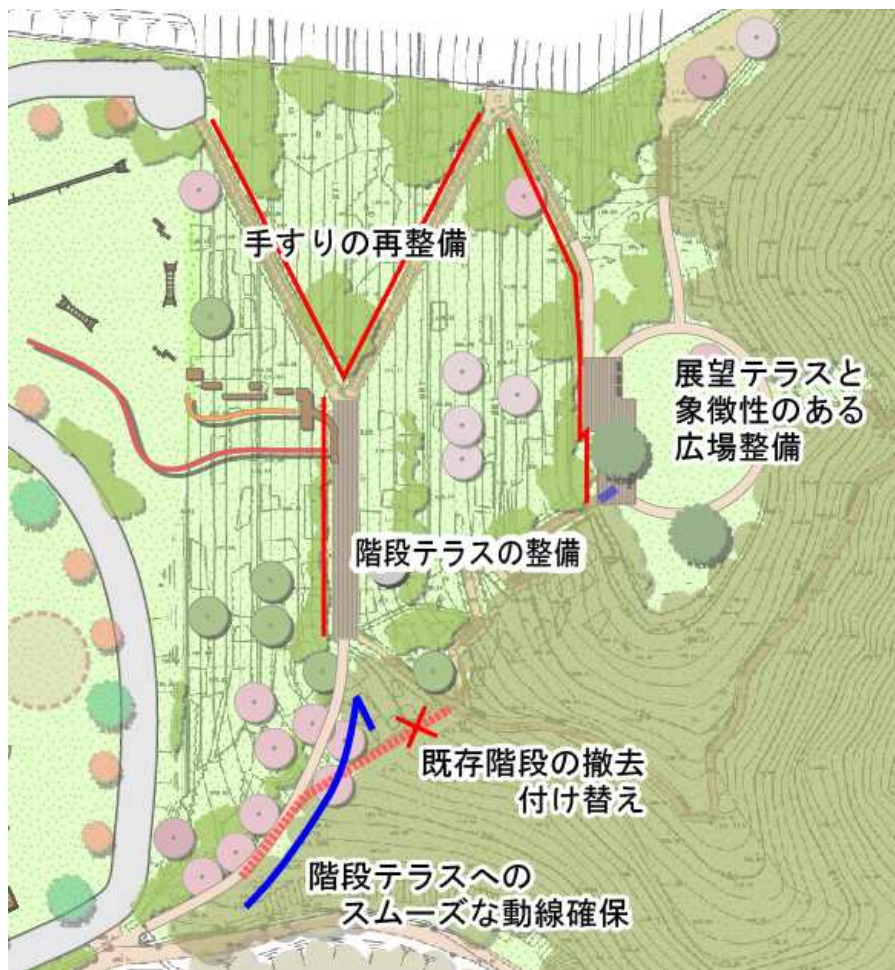
### ①展望広場

- ・展望広場及び法面中段は、大山への景観をゆっくりと眺めるテラス空間を創出し、ベンチ等を配置する。
- ・広場全体を大山への方向性を意識した象徴的な空間とするため、テラス空間と連続性を有した園路を配置する。



### ②法面部階段整備

- ・展望広場への階段は、再整備にあたり冒険遊具との連絡動線ともなることから、階段部で劣化がみられる手すりを再整備する。
- ・法面南側の散策路を一部付け替え、遊具とつながる中段、階段テラス部にスムーズな動線を確保する。



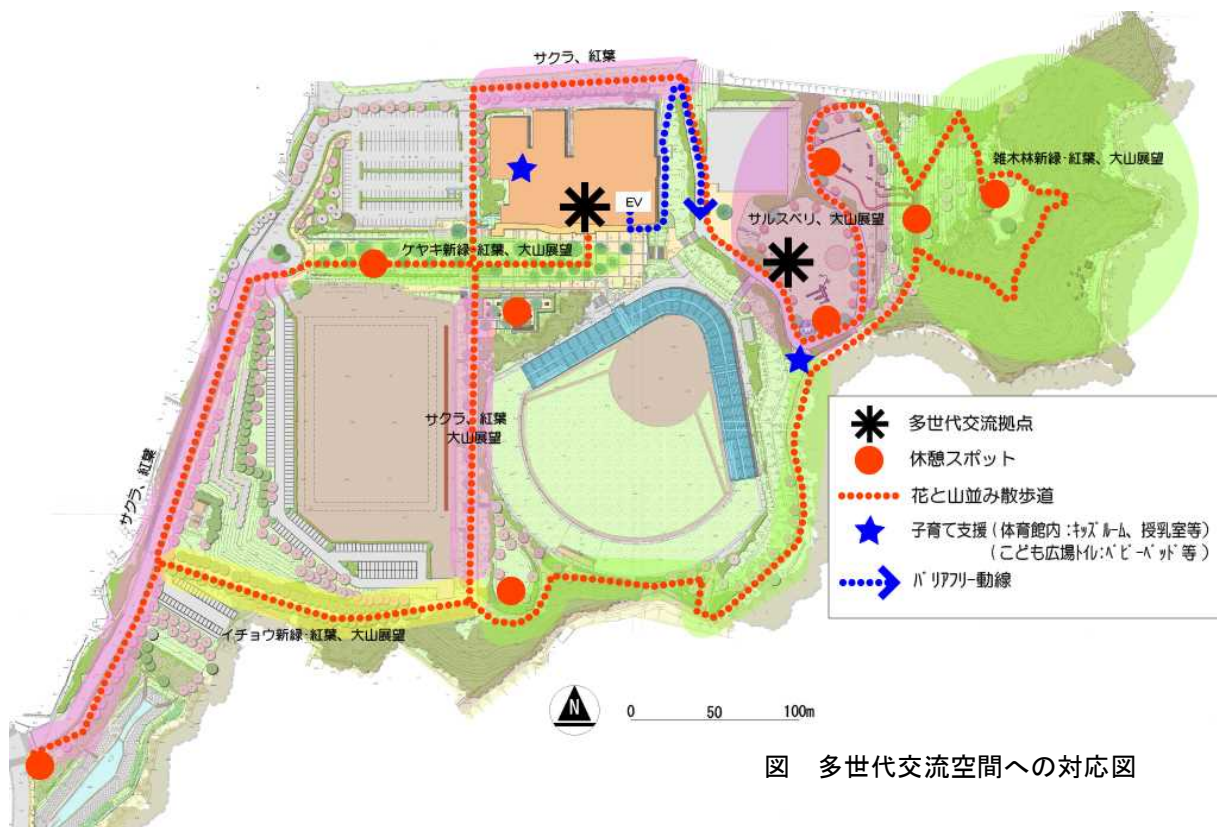
## (5) 回遊性の向上

### ①ゾーン間の連携強化

- ・屋内施設である総合体育館と子ども広場を、総合体育館の2階デッキレベルで連携・連絡し、子育て世代や高齢世代など幅広い交流空間を形成する。
- ・子どもの広場の中心エリアである「空と大地のゾーン」内に健康運動遊具や休憩施設等を配し、子どもから高齢者まで、幅広い利用者の交流空間を創出する。
- ・アリーナやトレーニング室での活動やイベントを通して多世代交流の促進を図る。
- ・総合体育館内に授乳スペース等の機能を配置するとともに、総合体育館内エレベータを活用した子どもの広場への補助動線を確保する。

### ②花と山並みの散歩道

- ・大山の眺望や四季折々の花を楽しむ散歩道として、既存園路を活用した散策ルートを設置し、幅広い利用を図る。
- ・散策ルートは誰もが楽しめる多世代交流の施設として、ゆったりと伊勢原の景観を満喫できるよう、季節毎に推奨コースや見どころを紹介する。
- ・散策ルート沿いには、ベンチ等を配した休憩スポットを配置する。



### ③ランニング・ウォーキングコース

・幅広い年齢層の利用者が楽しめる健康づくりのコースとして、大山の眺望を楽しんだり、公園を代表するサクラやイチヨウ並木を觀賞できるなど、公園の特徴を活かした1周約1,400mの周回コースを設定する。

またコースは、利用者の体力に応じて距離を選べるよう、沿道の特徴別に個別コースを設定する。

・自由広場内を巡る健康づくりコースは、直線となる区間を短距離の練習もできる直線走路として整備する。(直線部は弾性舗装で2コースを確保する)

・コースのスタート地点は、自由広場東側、中央広場と接する位置とし、ランニング・ジョギングの目安となる時計塔と利用案内サイン(コース紹介や利用規則等)を設置する。

・ランニング・ジョギングコースは距離ポイントをマーキングする。

・コースの一部には夜間でも対応できるよう照明を配置する。

▶ランニングコース 1周 約 1,400m

▶個別コース

▶[健康づくりコース] 1周 約 500m

(コースの一部区間を100mの直線走路(弾性舗装・2コース)として整備)

▶[サクラ並木コース] 1周 約 700m

▶[山並みコース] 1周 約 1,000m



## (6) 環境学習の場の充実

- ・本公園を拠点として自然観察や自然環境の保全育成活動を行っている団体と連携し、市民や学校等に環境学習プログラムを提供する。
- ・環境学習活動では、総合体育館での情報提供とともに、既存樹林地西側の炭焼き小屋を活動の拠点に位置付け、体験学習の場とする。
- ・日常の公園散策の中で、身近に公園の自然や保全育成活動の内容がわかるよう、活動拠点や主要な自然観察ポイントに解説板を設置する。
- ・これら自然観察ポイントの解説は、セルフガイドシステムとして、ネットワークする公園や市民の森と一体的に実施し、案内サインやガイドマップにより利用促進を図る。

※セルフガイド：解説板やリーフレットなどをたよりにして、来園者が自分達で自然を楽しむ体験プログラム。



図 環境学習エリア構成図

○本公園で活動する団体

《伊勢原グリーンインストラクターの会》

「グリーン・ハート・スクール」として、公園及び周辺で草花や野鳥の観察会等を実施。

《NPO 法人いせはら森の会》

公園内の既存樹林の管理やカタクリ、ヤマユリ等の育成、炭焼き等の活動を実施。

### (7) 周辺散策ルートの充実

- 伊勢原市総合運動公園散策ルートの自然散策コース、歴史文化散策コースとして、案内サインやガイドマップにより利用促進を図るとともに、歴史ガイドツアーや環境学習ツアーを開催する。

- ▶自然散策ルート  
[全長 6.5 km]
- ▶歴史文化散策ルート  
[全長 7.2 km]

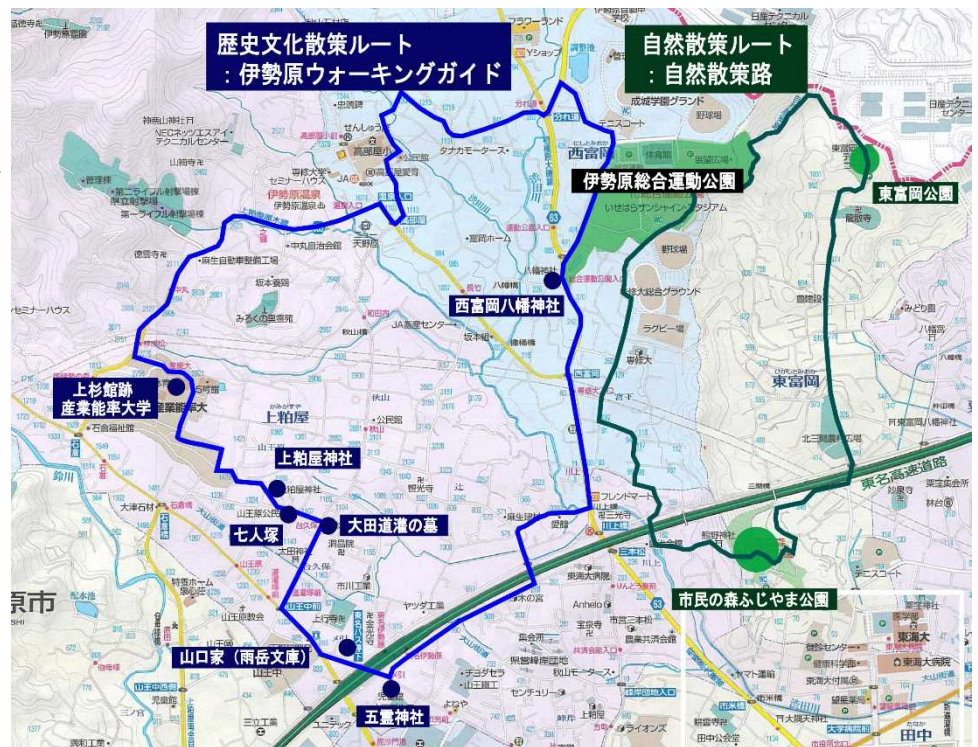


図 総合運動公園散策ルート図

### (8) 花木修景の展開

- 本公園は、桜の名所とともに『公園緑花まつり』の開催等、花と緑に親しむ場として人気が高い。
- 新たな園地整備や環境整備を行うに当たっては、現況の花木修景の展開を踏まえ、花の少ない初夏から夏にかけて開花する花木を配置する。
- 子どもの広場では、芝生外周部にサルスベリを植栽する。



図 花修景の展開と花暦

| 1 | 2 | 3     | 4   | 5  | 6    | 7     | 8 | 9 | 10 | 11    | 12 |
|---|---|-------|-----|----|------|-------|---|---|----|-------|----|
|   |   |       | サクラ |    | アジサイ |       |   |   |    | イチョウ  |    |
|   |   | ケヤキ新緑 |     | フジ |      | サルスベリ |   |   |    | その他紅葉 |    |

### (9) 駐車場の構成

- ・ 現況駐車場を第1駐車場とし、子どもの広場西側(第2駐車場)、自由広場西側(第3駐車場)、調整池北側(第4駐車場)、及びアプローチ園路沿いに大型駐車場を配置する。
- ・ 常設駐車場に加え、自由広場の臨時対応を含め、現況駐車台数以上を確保する。

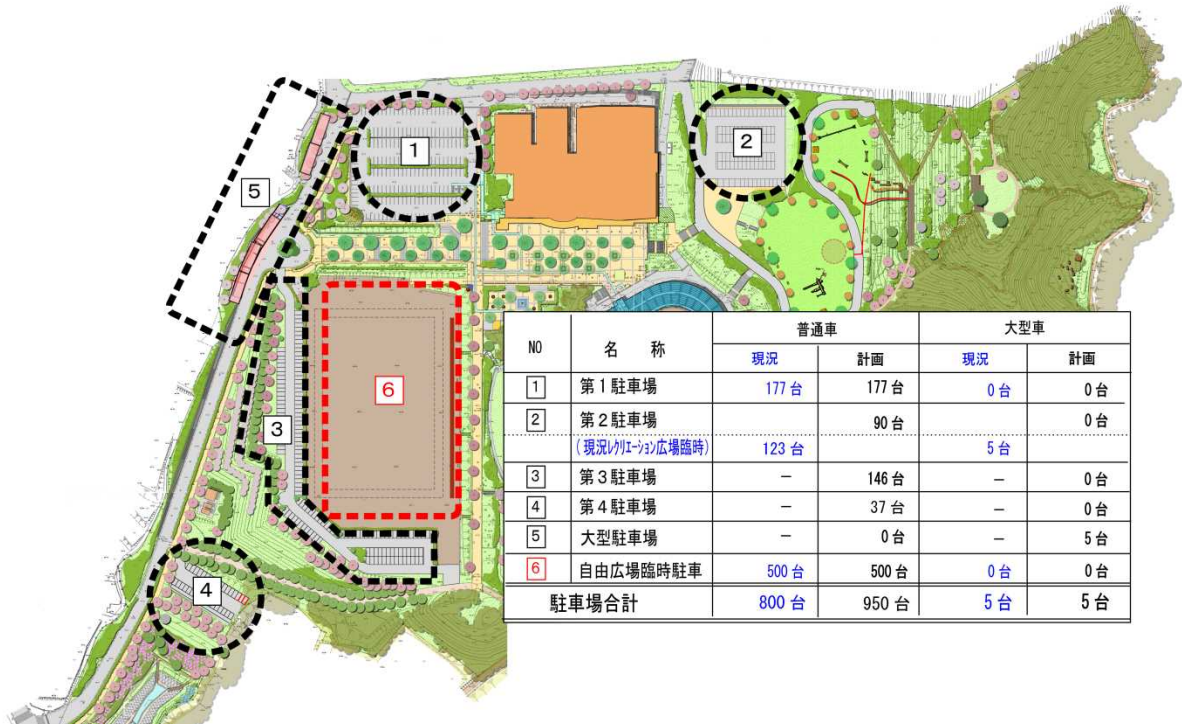


図 駐車場構成図